

「平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査」の結果について

【根木名小学校】

平成31年4月18日（木）に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の結果についてお知らせします。

1 児童が受けた調査について

「国語」、「算数」、「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

（１）教科に関する調査 【下記（ア）と（イ）を一体的問う】

（ア） 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

（イ） 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

＊出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

（２）児童に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

＊調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/19chousa/19chousa.htm>

2 本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

（１）教科の正答率について （※ 全国公立小学校の平均正答率（以下全国平均）との比較）

国 語	学習指導要領に示されている3領域1事項（「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕）に基づいて、その全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	C
算 数	学習指導要領第2章第3節算数における、「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

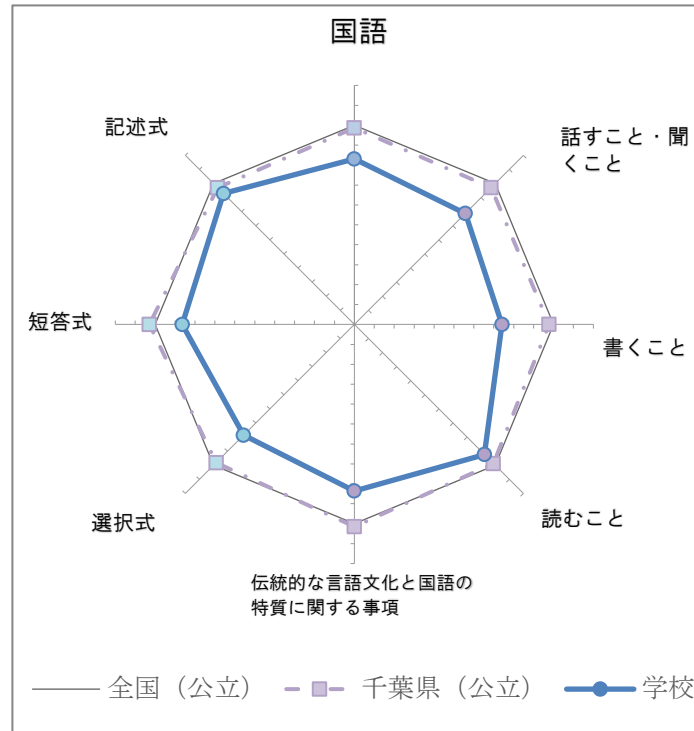
A：＋5.0％より上回っている場合「良好」

B：＋5.0％～－5.0の場合「ほぼ同じ」

C：－5.0％より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国 語



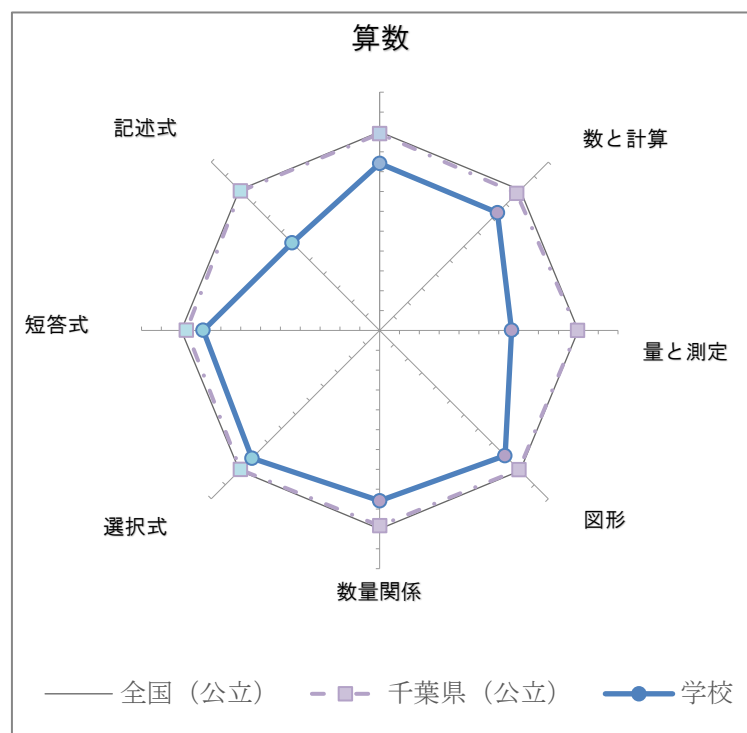
【特徴と現状】

- 全体的に、全国と比較して正答率が下回っています。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域において、正答率が大きく下がっています。
- 「選択式」の問題形式において、正答率が大きく下がっています。
- 目的に応じて質問を工夫することに課題があります。
- 文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けることに課題があります。
- 情報を相手にわかりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えることに課題があります。

【改善方策等】

- 目的に応じて質問を工夫することに課題があったので、教師の話や友達の発表の時に、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる力の向上を目指します。
- 文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けることに課題があったので、説明文や物語文の読み取りの時に、指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解する力の向上を目指します。
- 情報を相手にわかりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えることに課題があったので、日記や感想文を書く時に、事実と感想、意見などを区別し、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりする技能の向上を目指します。

算 数



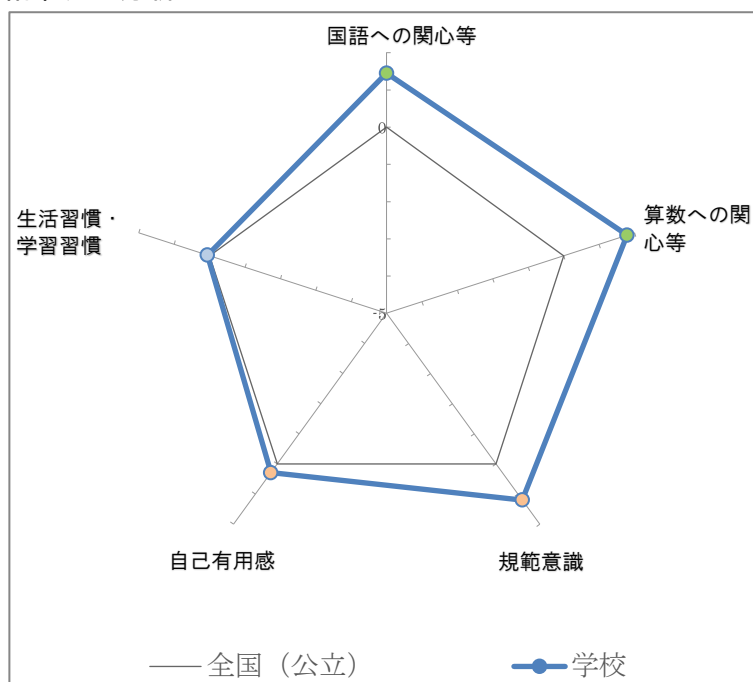
【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均と比較して正答率が下回っています。
- 「量と測定」の領域において、正答率が大きく下回っています。
- 「記述式」の問題形式において、正答率が大きく下回っています。
- 示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述することに課題があります。
- 示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述することに課題があります。
- 資料の特徴や傾向を関連付けて一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述することに課題があります。

【改善方策等】

- 示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述することに課題があったので、復習や自主学習の時間を使い、三角形、平行四辺形、ひし形及び台形の面積の求め方を理解する時間を増やしてまいります。
- 示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述することに課題があったので、復習や自主学習の時間を使い、除法について成り立つ性質を理解し、それを計算する仕方を考えたり、計算の確かめをしたりする時間を増やしてまいります。
- 資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述することに課題があったので、復習や自主学習の時間を使い、異種の二つの量の割合として捉えられる数量について、その比べ方や表し方を理解する能力の向上を目指します。

(3) 児童質問紙の結果及び分析



【特徴と現状】

- 教科への関心については、「国語科」「算数科」とともに全国平均を大きく上回っています。子どもたちは、授業は好きだが、学習内容の定着に課題があります。
- 「規範意識」については、全国平均を上回っています。しかし、普段の学校生の様子に反映されていないことも見受けられますので、行動の伴った生活をしていくようにする必要があります。
- 「自己有用感」「生活習慣・学習習慣」については、全国平均とほぼ同じになっています。教師が普段の授業の中で、友達との関わりから自己有用感をもてるようにしていきます。

3 まとめ

全体的に学力を向上させていくことが求められます。学校においては、基礎的・基本的な学習を引き続き充実させるとともに、「話すこと・聞くこと」の向上に努めてまいります。また、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる力の向上を目指してまいります。

正答率が高い児童は、以下の質問において肯定的な回答が見られました。

- ・「朝食を毎日食べている」
- ・「学校の決まりを守っている」
- ・「本を読んだり借りたりしている」
- ・「授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている」
- ・「自分の考えがうまく伝わるよう、話の組み立てを工夫して発表している」

家庭や学校での生活・学習習慣と学力に関連があると考えられます。家庭での規則正しい生活習慣を身につけるとともに、学校での出来事を話題にしたりするなど、引き続きご家庭でのご支援をお願いいたします。